

第55回「正倉院展」が開催

10月25日～11月10日、奈良国立博物館で第55回「正倉院展」が開催された。

入館者数は、143,218人と昨年に比べて2.0%増加した。

正倉院宝庫は東大寺の正倉として造立された校倉式の倉で、その中には聖武天皇と光明皇后の遺愛品をはじめとして、中国・唐時代や奈良時代の貴重な宝物、東大寺の関連の寺宝が約9千点保存されている。

今年は、^{とりげんでんしよのびょうぶ}鳥毛点篆書屏風（聖武天皇遺愛の屏風）、

^{へいらでんはいのえんきょう}平螺鈿背中円鏡（らでん飾りの鏡）など聖武天皇と光明皇后が身に置かれた品々をはじめ、東大寺で用いられた仏具や献物箱、奈良時代の衣装や佩飾品（腰飾り）、薬物と顔料、文書類などが出品された。

正倉院収納の衣服の刺繍は刺し縫を中心として、纏纒（うんげん）文様や鮮やかな色彩が施されており、奈良時代の貴人の装いがうかがわれた。

丹や雲母粉などの薬物は香や薬、あるいは顔料として用いられたもので、今回は絵の具皿と思われる佐波理皿（さはりのさら）、美しい彩色の金銀絵長花形几（仏への献物を載せた机）、碧地金銀絵箱などの献物几・献物箱も出品され、奈良時代の工人の高度な技術がみられた。（上田）



奈良国立博物館